〈地理〉選定の観点からみた内容の特色

教育出版

観点	『中学社会　地理』の特色と具体例
選択，程度，分量	
●社会科の目標に照らして，適切な内容が取り上げられているか。	●新学習指導要領の「社会科の目標，各分野の目標，内容，内容の取扱い」をふまえ，地理的分野に必要な社会科の基礎的・基本的な事項が明確におさえられている。典型的な教材への焦点化と学習内容の重点化が的確に図られ，特に，社会の変化や今日的課題が反映された事象を積極的に取り上げることで，生徒の「未来社会を切り拓くための資質・能力」を育むように配慮されている。 →p.14～17「地球儀から世界地図へ」「200近くの国々からなる世界」，p.158～161「さまざまな自然災害」「防災から減災へ」
●生徒にとってわかりやすく，興味や関心を喚起する内容が選択されているか。	●生徒の日常生活や経験と関連の深い身近な話題・内容が多く取り上げられているほか，巻頭や折込のページを中心に，興味・関心を喚起する写真資料が豊富に盛り込まれ，学ぶ楽しさや意欲が高まるように配慮されている。また，巻頭には，小学校の社会科学習を振り返るページや，地理の学習を始めるにあたって，その意義や学び方について紹介するページが設けられている。 →巻頭1～2「世界のさまざまな風景-世界遺産」，Ⅰ～Ⅳ「さぁ，地理の学習を始めよう」ほか，p.10「キャッサバからタピオカへ」など
●生徒の学力向上に対して，どのように配慮されているか。	●全体のページ数や本文の記述量を充実させ，学習内容を詳しく丁寧に扱うことにより，基礎的・基本的な事項の確実な習得が図られるように配慮されている。本編のページに設けられた「確認／表現」「読み解こう」のコーナーやコラム，学習を広げたり深めたりする特設ページ，そして最後に取り組む「学習のまとめと表現」のページというように，段階的な学習を通して学力の着実な向上が図られるように構成されている。また，本文中には，資料との関連がわかる資料番号や，前出・後出する関連箇所への参照ページも挿入し，さらに見開き右ページの欄外にも「関連ページ」を示す箇所を設けて，学習項目が関連する教科書内にある他の箇所や他分野との関連も示すなど，学習の支援となるように工夫されている。 →p.2～3「もくじ」，p.4「『地理』教科書の使い方」，全般
●全体や単元の分量が，適切に設定されているか。	●学校教育法施行規則が定める各分野の授業時数をふまえて編集されており，表現活動をはじめとするさまざまな活動のための時間も十分に確保しながら，充実した学習を進めることができるように，適切に配分されている。特に地理的分野では，年間授業時数をふまえ，世界と日本の地誌学習に重点を置くなど各単元の扱いに軽重をつけることにより，生徒がじっくり追究しながら充実した学習を展開できるように配慮されている。本編については，授業の展開や学習の見通しがつかみやすい「1時間＝見開き2ページ」で構成されているほか，学習指導計画上でもゆとりのある時数が配当され，学校や地域の事情に応じて，特設ページの扱いなどにより弾力的な時数の運用ができるように設定されている。 →本編時数（第1編：9，第2編：36，第3編：55，計100／115）
組織・配列	
●単元が新学習指導要領に対応し，適切かつ系統的に構成されているか。	●単元構成は，新学習指導要領の内容の区分や順序に準拠し，「編・章・(節)」の配列により，その対応がわかりやすく組織されている。特に，社会の変化や今日的課題が反映された事象が積極的に教材化されているとともに，そうした変化や課題に自ら対応する資質・能力を育成するという視点から，問題解決的な学習が基調とされている。さらに，「もくじ」で単元構成と学習内容の全体が一覧でき，学習の位置や見通しがつかみやすいように工夫されている。 →p.2～3「もくじ」
●二学期制に対して配慮されているか。	●各分野の単元構成は，前期・後期の二学期にも配分しやすく配列されている。
●教育基本法および道徳教育との関連が，十分に図られているか。	●教育基本法第２条の第１～５号および新学習指導要領第３章「特別の教科　道徳」の第２に示された内容について，社会科の目標や学習内容と関わらせた指導を効果的に行うことができるように構成されている。ボランティアを含めた公共的な活動や政策に取り組む人々の様子を取り上げ，活動の内容や人々の思いに触れる学習を通して，社会形成への参画意識を高めるように配慮されている。 →p.206～207「古都の景観保全」，p.212～213「開発と環境保全の歩み」，p.280「課題解決の提案」など
●小・中の接続や生徒の発達段階との関連に関して，どのように配慮されているか。	●教育出版『小学社会 6』のキャラクターが中学生に成長した姿で紙面に登場し，共に学び合う意識が連続するように工夫されている。文体は「です・ます」調で，第1学年の学習範囲には小６の配当漢字にもふりがなを付けるなど，平易な記述に配慮されている。特に，巻頭の「地理にアプローチ」には，小学校で学習した地図のきまりや地図帳の使い方，グラフの種類などを振り返る活動を位置づけているほか，第1編，第3編・第1章に，ワークシートのように直接書き込む作業活動も取り入れるなどの工夫が図られるなど，発達段階に応じて無理なく学習することができる内容である。 →p.4「キャラクター」，p.6～8「地理にアプローチ・地図やグラフを使いこなそう」，p.11「六つの大陸と三つの海洋」など
●カリキュラム・マネジメントの視点や，歴史的分野・公民的分野との分野間の関連について，どのように配慮されているか。	●全体として，分野ならではの「見方・考え方」を明確にし，一貫した編集となっているため，他の分野や教科との横断的・連携的なカリキュラムの立案がしやすい構成となっている。特に地理的分野では，見開き右ページ下に，「関連マーク」を付して歴史的分野・公民的分野との連携を図る工夫がなされている。また，地域の歴史に関する記述や資料が多く取り上げられ，世界や日本の各地の特色について歴史的な歩みや背景と関わらせてとらえられるように構成されるなど，歴史的分野との関連が図られた構成となっている。さらに，第3編・第1章「地域調査の方法を学ぼう」と第4章「地域のあり方」には，発表会に地域の方々を招いて意見を提案しようとしたりするなど，地域社会への参画意識を高める学習が設定され，公民的分野の学習への橋渡しが図られるように構成されている。 →p.90「アフリカの歩みと課題」，p.116「日系移民の歴史とつながり」，p.192～193「地方中枢都市の発達」，p.204～205「歴史に育まれた地域」，p.206～207「京都の街並みと伝統文化」，p.144～145「調査の結果をまとめる」，p.280～281「地域に向けて発信する」など
表記・表現，資料	
●記述内容が，正確・公正中立で一貫しているか。	●記述内容が正確・公正中立であることはもとより，中学生の思考や論理展開に整合しており明快である。学習の導入から，課題の設定と追究，まとめに至る構成と記述が一貫しており，学習事項の確実な定着を図ることができる。 →p.48～65など全般
●記述の読みやすさに配慮されているか。	●地名・人名などの固有名詞や社会科特有の用語などには，見開きごとにふりがなを付けるとともに，小学校との接続をふまえ，第1学年の学習範囲には小6の学年別配当漢字にもふりがなを付けることで，読みのつまずきが軽減するように配慮されている。また，主要な文字には教育的配慮を施した書体を用いているほか，文章は平易な表記・表現に徹し，側注や巻末には用語解説も掲載するなど，読解に負担がかからないように配慮されている。 →全般
●資料が正確で，効果的に提示されているか。	●社会科学習に不可欠な写真・イラスト・地図・グラフ・図解などの資料が豊富に掲載され，出典と併せて視覚的にとらえやすく配置されている。本編ページの各資料には，指示しやすいように通し番号を付けるとともに，本文中にも資料との関連がわかるように資料番号が挿入されている。また，巻頭や折込・扉ページを有効に活用したレイアウトにより，資料性と学習効果が高まるように構成されている。特に，両開きの折込ページに，ダイナミックな衛星画像や伊能忠敬の日本地図が掲載され，地図への興味・関心と資料活用能力を高めるように工夫されている。 p.56～57など全般，p.129～132「宇宙からとらえた地球／日本列島」など
●文字や色覚に関して，判読しやすいように配慮されているか。	●視力や色覚に関しては個々の特性があることに留意し，すべての生徒にとって見やすいカラーユニバーサルデザインに基づく紙面づくりがなされ，第三者機関ＣＵＤＯの認証も受けている。文字についてはユニバーサルデザインフォントによる黒文字を基本とし，白抜き文字や色文字は十分な大きさを確保しているほか，図版資料については，配色とともに形や模様，引き出しなどの表示も工夫することにより，判読しやすいように配慮されている。 →p.6～8など全般
●発行者が管理するウェブページは，適切なものであるか。	●章・節の扉ページに掲載されたQRコードやURLは，発行者が管理する特設のウェブページのものである。また，そのリンク先の内容は，省庁などの公的機関・公立博物館など，教科書のより効率的な活用に資するホームページなどとしており，安全で公正中立なものである。 →p.9，p.29など編・章の扉ページ全般
学習活動	
●社会科において重視される，資質・能力の育成への支援について，どのように取り入れられているか。	●**【知識・技能】**を育成する学習活動への支援としては，本編ページの最後に，学習したことを整理しながらまとめる活動として「確認」のコーナーが設けられ，学習事項の確実な定着が図られるように構成されている。また，本文内に適宜設けられた「地理の技」のコーナーでは，個人やグループでの活動を通じて，地理の学習で身につけたい技能や表現力を養えるよう配慮されている。この「地理の技」のコーナーは，小学校社会科の振り返りにあたる学習から中学校社会科地理的分野で身につけておくことが適切な「地理的技能」の習得まで，幅広い学習内容の定着に寄与する内容となっている。 ●**【思考・判断・表現】**を育成する学習活動への支援としては，本編ページの最後に，「確認」を受けて学習したことを基に表現する活動として「表現」のコーナーが設けられ，学習事項の定着と活用が図られるように構成されている。また，学習の流れに即して「読み解こう」や「Q」のコーナーが適宜設けられ，(地図・グラフ・絵・図解などの）資料を読み取って考察する学習活動が重視されている。特に地理的分野では，世界地誌・日本地誌の各地域の学習の最後に，それぞれ特設ページが設けられており，地域に根ざした話題を取り扱い，考察力が高められるよう配慮されている。 ●**【主体的に学習に取り組む態度】**を育成する学習活動への支援としては，地理的分野の最後のまとめの学習として，第3編・第4章「地域のあり方」が位置づけられている。ここでは，それまで学習してきた内容を振り返り，生徒たちが自分が暮らす地域の課題を選定し，その課題について調査を行い，解決方法を見い出したり，地域に向けて提案したりする学習を取り入れている。地域の課題が日本全体に結びついていたり，世界や日本で起きていることが地域の課題と結びついていたりすることに生徒自身が気づき，地域や社会を持続可能なものにしていこうとするように配慮されている。 →【知識・技能】p.41「確認」，p.31（地理の技）「気温と降水量のグラフを読み取ろう」など各所，【思考・判断・表現】p.41「表現」，p.43「読み解こう」，p.32資料１・２「Q」など各所，【主体的に学習に取り組む態度】p.274～281「地域のあり方」など
●生徒が自ら積極的に「見方・考え方」を働かせて，主体的・対話的で深い学びに資する学習および指導ができるようにどのような配慮されているか。	●「見方・考え方」の視点や方法については，「地理の学習を始めるにあたって」の中で「地理的な見方・考え方」のコーナーを設けて，これから始まる本編ページなどの学習に際して「地理的な見方・考え方」に留意し，それを働かせながら学習を深めていけるように配慮している。例えば，本編ページの学習の導入部分のキャラクターの吹き出しや，「読み解こう」のコーナーの問いなどを通して，資料の読み取りに際して働かせるべき視点や考え方の示唆を丁寧に示すように工夫している。 ●授業の導入の場面では，生徒の興味・関心が高まるような，写真・図版などの資料をわかりやすく提示することでスムーズに授業に入っていくことができるように工夫されている。加えて，生徒にとって親しみやすい中学生や教師のキャラクターが登場し，気づきや問い，学習の手がかりなどが示唆されている。学習者の視点を取り入れることで，共感しながら学びに取り組めるように工夫されている。 ●本編ページのタイトルには，学習内容を象徴する主題と学習事項を表す副題をおき，併せて「学習課題」を明示することで，生徒が課題意識を明確にすることができるよう配慮している。「学習課題」から展開していく問題解決的な学習の流れが重視され，その流れに沿って効果的な教材や資料が掲載されている。 ●授業の初めに位置付けた「学習課題」を受けて，資料の読み解きのために随時設けられている「読み解こう」を経て，1時間の学習の最後には「確認／表現」のコーナーの「問い」に取り組み，生徒が自ら学び，自ら考える学習が展開できるように配慮されている。この「確認／表現」のコーナーでは，学習したことをもとに「確かめよう」，「まとめよう」などの課題が多く設定され，知識・理解や表現活動を行うことで1時間の学習を振り返ることができ，加えて，自分の意見が他者との交流を経てさらに深まっていくように配慮されている。 ●特に，地理的分野では，日本のさまざまな地域を扱う学習（第3編）の冒頭に設けられた，地域調査の方法を学ぶ学習において，テーマを決めてまとめたレポートをクラスの中で話し合ったり，意見交換を行ったりするなどの対話的学習の場面，グループで野外を歩きながら調査テーマを決めたり，班ごとに調査結果を発表し合ったりする場面を設けている。これらの場面が設定されることによって，教え合いや学び合いによる協働学習をもとに多角的に理解したり考えを深めたりして新たな知識の習得や，生徒の学習意欲を向上させる工夫が図られている。さらに，調べ学習では地域での調査活動に必要な学び方の手がかりが「地域調査の手引き」のコーナーに示されるように構成されている。 ●公民としての資質・能力を効果的に培うことを意図した，学習してきたことを根拠に自分なりの考えを表現し合う「選択・判断」や「考察・構想」の学習場面については，学習のねらいに即し，発達段階において無理がなく，実際に読み取りやすい例が用意されている。特に，地理的分野においては，「地域のあり方」において最終的に課題解決の提案を行い，地域に向けて発信していく活動までを無理なく扱っている。

観点	『中学社会　地理』の特色と具体例
	→p.Ⅳ「地理的な見方・考え方」，p.4「本文ページの見方・使い方」，p.4「キャラクター」，p.97「読み解こう」，p.134「地域調査の手引き①」ほか多数，p.136～137「調査活動の進め方」，p.142～145「現地での調査」，「調査の結果をまとめる」，p.280～281「地域に向けて発信する」など
●多面的・多角的な学習活動がスムーズに進行するように，どのような支援や工夫が取り入れられているか。	●巻末には学習資料として「用語解説」や「世界の国々のあらまし」・「日本の都道府県のあらまし」が掲載され，生徒の地理的認識を高めるように配慮されている。 ●特に地図の活用に関しては，世界の州や日本の地方の精細な地勢図が適宜掲載され，学習を進めながら常に地図を活用できるように構成されているほか，中学校で身につけたい世界や日本の略地図を描く活動や，地形図の見方と活用の仕方も詳しく扱われている。 ●世界と日本の地誌学習の節末には，今日的な課題に迫るコラム的な特設ページ「地域から世界を考えよう」・「現代日本の課題を考えよう」が各１ページで設けられ，興味・関心に応じて個々に探究する学習に取り組めるように構成されている。末尾には，特設ページの学習を通して，再度節全体の学習をとらえなおすような問い「Q」を設けて，学習がさらに深まるように工夫している。 →p.282～287「用語解説」，p.288～291「世界の国々のあらまし／日本の都道府県のあらまし」p.20～21「位置の表し方と時差」，p.141(地理の技)「新旧の地形図を比べよう」，p.126「変わる太平洋の島々の暮らし」，p.242「都市特有の課題について考える」など
●見通し・振り返りがどのように意識され，どのように位置づけられているか。	●章・節といった「内容のまとまり」ごとに，章・節の扉ページにはこれから学習する章・節全体の内容を大観できるダイナミックな写真を多く配置して興味・関心を高めるとともに，併せて学習の見通し(世界地誌では「学習テーマ」，日本地誌では「学習の視点」）などを端的に表示し，その見通しに沿って学習が進行していくように配慮している。それに対応した「学習のまとめと表現」のページでは，学習で身につけてきた用語（言葉）を振り返ったうえで，地図や表を使って学習内容を確認したり，それを文章に表現したりし，最後に章・節を通した学習を振り返って意見を交換する学習を促すことで，より深い学びの実現と定着を図ることができるように配慮している。 →p.48(節の見通し）「学習テーマ」，p.65「学習のまとめと表現」，p.81「学習のまとめと表現」など
社会的課題	
●人権教育・福祉教育に関して，どのように配慮されているか。	●日本国憲法や教育基本法に示される「人間尊重の精神」に基づき，差別や人権確立の歴史，人権をめぐる現状と課題についての考察を通して，すべての人の権利が守られる，差別のない「ともに生きる・ともに創る」社会の実現を追求する力が養われるように配慮されている。特に地理的分野では，世界のさまざまな民族・文化と社会との関わりを通して，多様な価値観や文化に対する理解と寛容を育むことができるように留意されている。 →p.90「アフリカの歩みと課題」，p.116「日系移民の歴史とつながり」，p.124～125「白豪主義から多文化主義へ」，p.228「多文化共生について考える」など
●環境教育など“持続可能な社会”の形成，SDGs(持続可能な開発目標)の視点に関して，どのように配慮されているか。	●3分野を通じて，自然環境と自分たちとの関わりや，環境保全の重要性について多面的に考察し，理解を深める学習活動が重視されている。「地球規模で考え，足元から行動する」観点が強調され，廃棄物の減量やリサイクルをはじめとする循環型社会への転換を追求する教材が積極的に取り上げられ，環境保全のために自ら行動できる力が養われるように配慮されている。特に地理的分野では，「地理の学習を始めるにあたって」で「地球的課題とSDGs」を掲載して世界地誌学習において各州ごとに取り上げる地球的課題との関連を示すことで，今後の学習に対して興味・関心を高めるように工夫した。本編では温暖化や酸性雨などがもたらす環境破壊の現状とその対策について多角的に取り上げ，地球環境問題の解決には国際的な協力はもとより，自らの行動が不可欠であることの理解を深めるとともに，自然災害と防災，開発と環境保全に関する具体的な事例を豊富に取り上げ，自分たちの暮らしとの関わりについて関心と考察を深めるように留意されている。 →p.Ⅳ「地球的課題とSDGs」，p.76～77「持続可能な社会づくり」，p.112～113「進展する開発と変化する環境」，p.182～183「工業の移り変わりと環境保全」，p.212～213「開発と環境保全の歩み」など
●国際理解教育に関して，どのように配慮されているか。	●3分野を通じて，外国(人)との交流や地域の国際化，世界の多様な文化・宗教などの事例が豊富に取り上げられている。国籍や文化・習慣の違いを越えて相互に理解・尊重し合う必要性が強調され，国際社会に生きる日本人として「ともに生きる・ともに創る」社会の実現を追求する力が養われるように配慮されている。特に地理的分野では，世界各地の人々の労働の様子を取り上げ，地域の自然条件や社会条件と人々の暮らしとの関わりについて興味・関心を高めるように留意されている。 →p.30～45「世界の人々の生活と環境」，p.86～87「アフリカの農業からみえる課題」，p.207（地理の窓）「世界文化遺産と観光都市」，p.228「多文化共生について考える」など
●平和教育に関して，どのように配慮されているか。	●3分野を通じて，先の世界大戦がもたらした惨禍や冷戦の影響，核兵器廃絶への取り組みをはじめ，現代の地域紛争や国際テロなどの問題について理解が深まるように配慮され，平和を希求することの意義が強調されている。特に地理的分野では，宗教の違いをめぐる対立や紛争の背景を通して，共存のあり方について考察が深まるように留意されている。 →p.45（地理の窓）「宗教をめぐる共存と対立」，p.79（地理の窓）「ウクライナ問題」，p.104「世界に展開する軍事力」など
●情報化・リテラシーの進展に関して，どのように配慮されているか。	●3分野を通じて，情報化の進展に伴う社会や生活の変化，情報の有効な活用について理解が深まるように配慮されている。特に地理的分野では，情報通信の発達と地域間の結びつきとの関わりや情報発信に関わる学習，情報格差の問題について取り上げられている。 →p.61「インドのICT産業」，p.170～171「結びつきを強める世界と日本」，p.240～241「国際的な結びつき」など
今日的課題	
●地域(郷土)への愛着や持続可能な地域づくりに関して，どのように配慮されているか。	●3分野を通じて，地域の歴史や現状，抱える課題などについて実地に調査し，理解を深める学習活動が重視されている。特に地理的分野では，地場産業や伝統産業と，それに携わる人々の暮らしの様子を取り上げ，自然環境や歴史的背景との関わり，継承への取り組みなどについて理解を深めるとともに，各地の地域おこしの事例を通して，地域社会が抱える課題を描き出している。さらに，過疎化・高齢化といった課題に対して，「六次産業化」や「持続可能な森林づくり」など，地域を活性化するための人々のより具体的な工夫や努力について考察を深めるように構成されている。 →p.196～197「過疎対策と地域おこしの工夫や努力」，p.226～227「北陸地方の産業と水との関係」，p.248～251「地域に根ざした豊かな文化」「現代に生きる地域文化」，p.200「持続可能な地域づくりを考える」，p.214「林業と持続可能な未来」など
●社会への主体的な参画に関して，どのように配慮されているか。	●3分野を通じて，地域社会での交流やボランティア活動に取り組む人々などの事例が積極的に取り上げられ，社会の形成者としての自覚と参画への意思が養われるように配慮されている。特に地理的分野では，本編の「地域調査の方法を学ぼう」「地域のあり方」を学習していく中で，聞き取りなどを行い，地域の課題の「見える化」を図り，その解決方法について地域の方々を招いて意見を提案する学習を通じて，地域社会への参画意識を高めるように留意されている。 →p.136～137「調査活動の進め方」，p.143「仮説を検証し，地域を見つめ直す」，p.274～281「地域のあり方」など
●伝統・文化に関して，どのように扱われているか。	●3分野を通じて，地域の歴史的な歩みや人々の暮らしと密接に結びついた伝統・文化の多様性やその継承という観点から，多文化共生への理解と，郷土や日本への愛着を深める学習活動が重視されている。特に地理的分野では，日本の世界遺産・無形文化遺産・伝統的建造物などに関わる学習を通して，伝統と文化の意義や，継承していくことの大切さについて理解を深めるように留意されている。 →p.132「日本にはどんな世界遺産があるのだろう」，p.146「防災のまちづくり」，p.248～249「地域に根ざした豊かな文化」，p.270～271「アイヌ民族の文化に学ぶ」など
●宗教に関して，どのように扱われているか。	●3分野を通じて，教育基本法に示された「宗教に関する寛容な態度，一般的な教養」を重視する観点から，特に地理的分野では，世界にはさまざまな宗教があり，宗教と関わりの深い生活が営まれ，同じ地域でも宗教その他の社会的条件による生活の違いがあることに気づくことができるように配慮されている。仏教，キリスト教，イスラム教などの世界的に広がっている宗教のほか，さまざまな民族・宗教と社会との関わりなどについて取り上げている。分布図との関わりで，分布の境界は必ずしも明確に分けられないことにも触れながら，多様な価値観に対する理解と寛容を育み，多文化共生社会を創造する態度を養うことができるように配慮されている。 →p.44～45「世界の民族と宗教」（資料５・世界の主な宗教の分布），p.59「タイに暮らす人々」，p.63「サウジアラビアのイスラム教徒」など
●防災教育に関して，どのように扱われているか。	●3分野を通じて，自然災害と防災に関する現状と課題，今後のあり方についての理解と考察が深まるよう配慮されている。特に地理的分野に関しては，学習指導要領解説の改訂を受け，「防災対策にとどまらず，災害時の対応や復旧，復興を見据えた視点」から，減災の考え方や東日本大震災をはじめとする多発する自然災害についても触れながら，災害時における自助・共助・公助について具体的に理解が深まるよう，本文だけでなく的確な図版・写真を用いて取り上げている。さらに，「地域調査の方法を学ぼう」では，地域の防災について調べる学習を中心に扱い，防災学習が実感を持って具体的に深めることができるように配慮している。 →p.142～143「地域の防災について調べる」，p.146「防災のまちづくり」，p.158～161「自然災害に向き合う」「災害から身を守るために」，p.256「震災の経験を受け継ぎ，未来に生かす」
●少子化・高齢化をめぐる問題に関して，どのように扱われているか。	●3分野を通じて，少子化・高齢化という現在の日本において深刻化が著しい問題について理解が深まるように配慮されている。特に地理的分野に関しては，世界と日本の人口をめぐる現状について扱うと共に，世界的に見ても類のない速さで少子化・高齢化が進んでいる日本の状況について，具体的な事例や人口ピラミッドなどのグラフなどを用いて多角的な理解が深まるように取り上げている。 →p.162～165「世界人口の増加と日本の少子高齢化」「過密地域と過密地域」，p.194～195「過疎による地域の課題」，p.200「過疎地域との関わりを考える」
●地図教育に関して，どのように扱われているか。	●小学校の社会科学習の振り返りとしての，地図帳や地球儀の活用，略地図の描き方，大陸名や海洋名，47都道府県の名称などの学習については，冒頭の「地理にアプローチ」や第1編の中などで「地理の技」として位置づけ，楽しみながら学べるように工夫されている。さまざまな地図について，その読み解き方や有効な活用の仕方などに関して，丁寧な説明と共に学習活動が深まるように配慮されている。本編では，随時本文と関連させながら，「読み解こう」や「地理の技」などの各コーナー，また折込には，オリンピックの開催地や世界遺産など生徒の興味・関心と結びついた地図資料を配し，的確な理解が深まるように留意されている。 →p.6～8「地理にアプローチ」，p.14～15「地球儀から世界地図へ」，p.54～55「中国の人々と農業」，p.129「夏季・冬季オリンピックの開催国・都市の分布」，p.132「日本の世界遺産の分布」，p.138～139「地図記号と縮尺」，p.141（地理の技）「地形図から断面図をつくろう」，p.148～149「地域区分をしてみよう」
●領土をめぐる課題に関して，どのように扱われているか。	●3分野を通じて，日本の領土をめぐる現況や問題が，新学習指導要領に基づいて政府見解に立ち適切に記載され，学習内容に応じて的確に取り上げられている。北方領土と竹島の領土をめぐる問題や，尖閣諸島をめぐる情勢に関わる解説や資料が掲載され，国土の範囲が重要であることや，問題の平和的な解決が日本にとって重要な課題であることなどについて多面的に理解・考察することができるようになっている。特に地理的分野では，日本の国土と領域に関する学習のなかで，こうした領土をめぐる諸問題について，本文と写真・地図・年表でわかりやすく記載されている。 →p.22～25「日本の領域はどこまで」，「日本の国境をめぐるさまざまな動き」
印刷・製本	
●印刷の仕上がりは，鮮明で見やすいか。	●文字や図版など資料の印刷は鮮明で，色彩もビジュアル性が高い。特に，写真の発色がきれいで，統計資料も読み取りやすい。
●本の造りは使いやすいか。また，環境への配慮はなされているか。	●複数年の使用に耐えうる堅固な製本で，装丁にも汚れにくい加工や，氏名を記入しやすい型抜き加工が施されている。造本上も，各ページがより開きやすい綴じ方を採用したことから，紙面スペースも広くなり資料性が高まっている。表紙は，地理的分野の学習内容に関連した写真で構成され，明るく魅力的である。また，印刷には，バイオマス(生物資源)エネルギーによって発電されたグリーン電力のほか，再生紙と植物油インキが使用され，環境への負荷を軽減するように配慮されている。 →表紙，裏表紙